



JR東労組仙台地方本部

「第34回定期大会」 大会宣言

私たちは本日、「ハーネル仙台」において第34回定期大会を開催し、失った信頼を取り戻し、安定した労使関係をつくり上げ、新たなJR東労組運動を全組合員でつくり上げる方針を満場一致で確認した。

2016年秋のたたかい以降、春闘において格差ベアを無くす方針については多くの組合員から賛同を得てきた。今春闘は「格差ベア根絶」を方針として、「あらゆる戦術行使も辞さず」とたたかいをスタートさせた。しかし、職場での議論が深まらず多くの組合員を悩ませ、不安や不満が重なり信頼と求心力を失ってしまった。また、労使協約の逸脱により労使共同宣言の失効通告で信用を大きく失い、加速度的な脱退を生み出し「大敗北」を喫したことを真摯に反省しなければならない。

新生「JR東労組」は、組合員のための労働運動を取り戻すために痛苦的な現実をしっかり向き合い、嘘や誤魔化し、上意下達ではない組織運営を目指す。私たち仙台地本は新たな方針と体制で中央本部と共に歩み、脱退を余儀なくされたみなさんが、JR東労組の未来に光明を見出し、労働組合の必要性を心から感じ、再結集できるように業務課題を中心に地道で着実なたたかいを全組合員の意思でつくり出していく。また、職場の安全・安心な業務運営を阻害する様な事象については、職場からのたたかいを基礎にして、信義誠実を原則に仙台支社と徹底的に議論し、安全が担保され、安心して仕事に専念出来る環境を構築する。

現在、JR東日本管内では鉄道妨害が多発している。郡山駅構内で発生した留置車両の流転や事務所の不審火、車両の一部損壊など、命をも奪いかねない行為を決して許してはならない。お客さまと組合員の命を守るために、職場との連絡体制を密にし、鉄道妨害の一掃へ向けた体制を更に強化していく。一部マスコミ報道で内部犯行説を流布している事にも警戒心を高め、これまで労使で築き上げてきた鉄道の安全を社会に訴えていく必要がある。また、東海道新幹線における殺傷事件などに対する安全対策も会社と早急に議論していく。

私たち東北の将来は非常に厳しい時代を迎える。今後の人口減少や社会の変化に迅速に対応すべく会社は様々な施策を矢継ぎ早に提案してきている。しかし、早急な施策実施には想定できない事象の発生が懸念される。その中で鉄道の安全が損なわれる可能性も否定できない。私たちは「新たな30年を展望する施策実施に向けた確認メモ」を基礎に組合員との対話を通じた要求の練り上げ、安全には決して妥協しない風土を確立し、「安全・健康・ゆとり」を担保に「働きがい」をつくり出しながら施策に対して真摯に向き合っていく。そして、地域のみなさんとの連携で様々な観点から考え、未来へ向けて地域の活性化をめざし、地方交通の維持・発展、そして、労働組合の社会的責務を果たしていく。

私たちは今こそ労働組合主義に徹し、JR東日本会社の発展と組合員、家族の更なる幸せを全組合員で実現していこう！

以上宣言する。

2018年7月7日
東日本旅客鉄道労働組合
仙台地方本部
第34回定期大会